

産業競争力強化対策特別委員会記録

<p>1 会議の日時</p>	<p>開 会 午前 9 時 5 8 分 令和3年12月15日 閉 会 午後 0 時 0 5 分</p>	
<p>2 会議の場所</p>	<p>第1会議室</p>	
<p>3 出席者</p>	<p>委 員</p>	<p>委員長 岩井 豊太郎 副委員長 平岩 正光 委員 伊藤 正博 渡辺 嘉山 小川 恒雄 松村 多美夫 田中 勝士 広瀬 修 恩田 佳幸 山内 房壽 安井 忠</p>
	<p>執 行 部</p>	<p>別紙配席図のとおり</p>
<p>4 事務局職員</p>	<p>主 査 水谷 昭之 主 任 山辺 有紗</p>	

5 会議に付した案件

件名	審査の結果
1 産業競争力強化対策に関する調査について 2 その他	

6 議事録（要点筆記）

○岩井豊太郎委員長

ただいまから、産業競争力強化対策特別委員会を開会する。

本日の委員会は、産業競争力強化に関し、今年度の重点調査項目としている、「生産性向上及び高付加価値に関する調査」及び「多様な人材の活躍に関する調査」について、ご協議いただくため開催したものである。

本日は、執行部のほか、現状等をご報告いただくため、参考人として、農事組合法人巣南営農組合から代表理事の小川勝範様、理事の江尾泰之様に、また、株式会社オンダ製作所から、常務取締役の林延彦様、商品開発課長の井村元様、知的財産課長の寺町大樹様の皆様方にお越しいただいている。

それでは、第1部を始める。

はじめに、「スマート農業技術を活用した高度輪作体系の構築による超低コスト輸出用米生産の実証」についてご報告いただく。小川様、江尾様におかれては、大変ご多用のところ、お越しいただき、感謝申し上げます。質疑については、終了後に願います。それでは、ご報告をお願いします。

（挨拶 農事組合法人巣南営農組合 代表理事 小川勝範）

（説明 農事組合法人巣南営農組合 理事 江尾泰之）

○岩井豊太郎委員長

ただいまの説明について、質疑はないか。

○田中勝士委員

今回、様々な機械を導入して、作業効率を向上させたというお話を伺ったが、作業効率はどのように計算されているのか。

○江尾泰之参考人

10a 当たりの作業時間を従来方法とスマート農業機械を導入した方法で比較している。

○田中勝士委員

スマート農業機械によって、作業時間が短縮されたということか。

○江尾泰之参考人

そのとおり。

○田中勝士委員

実証事業実施前の平成30年度と実施後の令和2年度を比較して、売上高は2割増加しているが、原価も増えているということか。

○江尾泰之参考人

そのとおり。

○田中勝士委員

実証事業であり、機械の導入費などは今回の経営状況には算定されていないということか。一般的に新規で機械を導入する場合は、初期投資とその分の減価償却費などが必要ということか。

○江尾泰之参考人

今回は機械の導入費用は経費に計上していない。スマート農業機械のトラクター、コンバインは、通常の機械より高額である。その経費を労働費用の削減などと勘案することとなる。

○恩田佳幸委員

輸出用米も余っているということであったが、今後、出荷する国を増やしていくのか、採算が合うようにコストを削減するのか。今後の方向性をどのように考えているのか教えてほしい。

○江尾泰之参考人

輸出用米を取り扱う全農岐阜では、来年度の取扱量を減らすこととし、コシヒカリを輸出用米として取り扱う予定としている。当組合においては水田への入水時期が6月以降となるため、コシヒカリの栽培には適さず、今後輸出用米を生産することは難しいと考えている。

○恩田佳幸委員

水田センサで水温を測定しているとのことだが、温度を把握し、どのような対応をするのか。

○松本岐阜農林事務所農業普及課地域支援第三係長

水温が著しく高くなると高温障害により米の品質が悪くなるため、水田に水を増やしたり、水を入れ替えたりすることで、水温や地温を下げる作業を行う。

○小川勝範参考人

水田センサは事務所内で水位や水温などの情報を得られるが、実際の作業は従業員が水田に赴いて作水管理する必要があると期待される費用対効果は確認できなかった。

○江尾泰之参考人

さらに水田センサは、通信費用が多くかかる。また、ドローンがその上空を飛んだ際に、ドローンの飛行に影響が出るように感じた。

○松村多美夫委員

法人の経営成果について、売り上げが増えているが、原価も上がっている。現在は赤字経営ということか。

○江尾泰之参考人

事業収支では赤字である。当組合の経営は、主食用米以外の作付けを支援する国の交付金などの営業外収益によって成り立っている。ただし、小麦の作付けの後に稲作を行うと、小麦の交付金収入が減ってしまうという状況もある。

○松村多美夫委員

そのような制度自体にも少し問題があるように思う。ドローンなどを使って効率化を図ってより多くの作付けを行っても、それが減収となってしまうと効率化した意味が無くなってしまう。

○岩井豊太郎委員長

質疑も尽きたようなので、第1部を終了する。改めて、小川様、江尾様、大変貴重なご報告をいただいたことに感謝申し上げます。

ここで、第2部準備のため、5分間休憩する。

○岩井豊太郎委員長

それでは、休憩前に引き続き、委員会を再開する。

第2部として、「“みんながうれしい商品”社会貢献につながる商品を市場に提供することでブランド価値を高める企業戦略」についてご報告いただく。

林様におかれては、大変ご多用のところお越しいただき、感謝申し上げます。質疑については、終了後にお願する。それでは、ご報告をお願いする。

(挨拶・説明 株式会社オンダ製作所 常務取締役 林延彦)

○岩井豊太郎委員長

ただいまの説明について、質疑はないか。

○山内房壽委員

ご説明いただいたダブルロックジョイント（ワンタッチで接続できる配管用継手）は特許を取得しているか。

○林延彦参考人

開発したのは1998年で特許は切れているが、何度も改良を重ね、その度に新しい出願をしており、特許が残っているものもある。特許取得は必須と考えており、知的財産に関する人材育成にも力を入れている。知的財産管理技能検定も多くの職員が取得できるように取り組んでいる。また、開発の関係では、QC検定やCAD検定の取得についても積極的に取り組んでいる。

○山内房壽委員

ダブルロックジョイントに製造年月日が記載されているようだが、これは半永久的な耐久性能があるものなのか。

○林延彦参考人

継手として使用する分には十分な耐久性能がある。いつ作ったか分かるように記載している。

○山内房壽委員

ダブルロックジョイントの材質には種類がいろいろあるが、棲み分けやコストはどうか。

○林延彦参考人

黄銅、青銅、樹脂の3種類ある。形状として青銅製でない作りにくい場合もあるが、当社はスピードやコスト面から内製化している黄銅製の製品をメインにしている。金属製でなくてもよい場合は樹脂製を使用している。PPS樹脂というエラストマー入りの特殊な材料を使用しており、これは凍結に強い。

○松村多美夫委員

ワンタッチで接続できるということだが、寸法間違いをした場合に継手から配管を抜くことはできるか。

○林延彦参考人

抜くことはできないため、1からやり直すことになる。そもそも、大手ゼネコンやハウスメーカーでは、寸法間違いをしたときに抜いてやり直すようなやり方は、漏水時等に責任の所在が不明確になるため、良くないと言われることが多く、抜くことができない設計が主流である。

○松村多美夫委員

家庭用の蛇口にホースをワンタッチで取り付けることができるようにするような商品などは考えていないか。

○林延彦参考人

業者向けの住宅部材がメイン商品のため、現時点では考えていない。

○岩井豊太郎委員長

質疑も尽きたようなので、報告については終了とする。

林様におかれては、大変貴重なご報告をいただいたことに改めて感謝申し上げます。

以上で、本日の議題は終了したが、この際、他に何かご意見等はないか。また、執行部の方、何かないか。

ご意見もないようなので、これをもって、本日の委員会を閉会する。

産業競争力強化対策特別委員会配席図

令和3年12月15日

第1会議室

